

ボランティア活動報告2017

「和紙キャンドルガーデンーTOHOKU2018ー」

3月10日～12日、東京六本木にあるミッドタウンにおいて、「和紙キャンドルガーデンーTOHOKU2018ー」が開催されました。このイベントは多摩大学村山貞幸ゼミ日本大好きプロジェクトが、日本の伝統文化を伝承する活動の一環として企画・運営をしています。多摩大学の学生が東日本大震災の被災地を何度も訪問し、東北の方々のメッセージを届けるプロジェクトで、震災後から続けられているイベント。学生が1枚1枚心を込めて書いた和紙に、東北3県125市町村で書いてもらった現地の方々の想いを和紙キャンドルに仕立て、「伝えたく」をテーマに3日間開催されました。被災地で活動している学生として、今回TASKIからは2名の学生がイベントに招待され、訪れた方々に被災地の現状について話しました。

学生の感想

国外の方も多く来場し、直接話をする機会がありました。ほとんどの方が東日本大震災があったことは覚えていましたが、実際に被災地が今どうなっているのかは全く分からず、復興は終わったと思っている方も多くいらっしゃいました。全国的なメディアで東日本大震災の話題がなかなか取り上げられなくなっている今、被災地の情報を私たち自身が発信していかなければならないと改めて実感しました。

(人間心理3年 C・D)



(今回はキャンドルを木の形に並べました)



(和紙キャンドルと東京タワー)



(和紙キャンドルを点火する学生)

(名取市の方からのメッセージ)



(来場者に被災地の話をする学生)



文：人間心理学科4年 伊藤ちひろ
(連携交流課 ワークスタディスタッフ)